

2015年10月30日
東京ガス株式会社

2016年3月期 第2四半期 決算説明会
主なQ&A

- Q1：2017年のガス小売全面自由化による収益性への影響について、どう考えているか？
- A1：制度も定まっていない現時点で収益への影響を定量分析することは難しいが、大口分野を中心に最大2～3割程度の需要脱落も想定して経営にあたる必要がある。また一定程度の時間をかけてスイッチングが進む可能性もあるので、今後の様々な状況変化に機動的かつ柔軟に対応していかなければならない。一方、2016年4月に電力小売が全面自由されるので、マーケット規模がより大きい電力事業を拡大し、ガス需要の脱落をカバーしていきたい。
- Q2：料金改定の考え方について教えてほしい。また、株主還元のバランスをどのように考えているのか？
- A2：経営効率化の成果を速やかにお客さまに還元するとともに、自由化を控え競争力を高めることが、今回の改定の狙いである。一方で、お客さま還元と株主還元のバランスは従前から重視しており、今回の値下げに関しても、それに対応して配当をどうするかについて今後考えていきたい。
- Q3：足元の油価下落、ヘンリーハブ価格の低迷を受けて、今年度も海外事業で減損が発生する可能性はあるのか？
- A3：第2四半期決算では海外事業の減損は発生していないものの、今後も油価やヘンリーハブ価格の動向に注視していく必要がある。

以 上